社会観を述へ花井卓藏氏は今夕は政友会としては齋藤君を始め数多の士あり進歩党としては高柳君其他あり又新会には卜部君其他あり大同派には須藤君あり戊申派には安東君あり況んや五名の無所属中其一人に坂本君ありて実に小議会の観ありとの冒頭にて高柳、齋藤、福田三氏の演説を批評して其議会観を述へ坂本君を指し無所属を代表しての一言を求め坂本氏は起て余れ余れ無所属議員は渡し船の御客にして各党は渡船業者なり余れ余れ御客は唯快く彼岸に達するの見込ある船に乗らんと欲するのみとの主旨を面白く演説せられ田邊熊一氏は実業家の各政党観を述へ夫れより宴を徹して雑談に移り「ウヰスキー」「ビール」の杯を引いて或は気焔虹の如きあり或は懐旧談あり滾々として興の罄くるなく其漸く散会を告けたるは午後十一時を過く当日の来賓は伊東政重、花井卓藏、大島久満次、岡田泰藏、大熊三之助、加瀬禧逸、横山金太郎、高柳覺太郎、田邊熊一、中村啓次郎、卜部喜太郎、松浦五兵衛、松野松太郎、福田又一、小林勝民、安東敏之、東武、佐野春五、齋藤二郎、柵瀬軍之佐、坂本彌一郎、木下謙次郎、箕輪藤次郎、關口安太郎、須藤嘉吉の諸氏にして主人測(マヽ)にては菊池武夫、土方寧、奥田義人、伊藤悌次(治)、高橋捨六、石山彌平、佐藤正之の諸氏なりし

234 中央大学招待会

〔『法学新報』第十九巻三（二一八）号
明治四十二年三月一日〕

○中央大学招待会　第二十五議会の召集に依り新選衆議院議員たる学員諸氏は帝都に集合せられ在台湾弁護士諸氏は台湾司法問題の為めに出京し又故松野幹事の遺子松野法学士（松太郎氏）は郵船会社倫敦支店詰に栄転せられたれは中央大学に於ては去月八日を以て是等諸氏の招待会を同倶楽部に開催したり当日は午後六時一同宴席に着き卓を囲みて酌み且つ談し宴酣にして菊池学長は起て開会の趣意を述へ杯を挙けて来賓諸君の健康を祝せられ安東敏之伊東政重二氏及ひ大島台湾総督府民政長官の挨拶あり次て高柳覺太郎氏は新議員としての感を述へ齋藤二郎氏は政友会代議士としての感を述へ福田又一氏は代議士としての